

(様式1)

自己評価表

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校

学校番号 37

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点努力目標	基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成 －思いやる心 自律の心 挑戦する心－ 『ものづくりから人づくり・夢づくり、信頼される学校づくり』 1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進 2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進 3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実 4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進 5 地域を愛し行動できる人間の育成（ボランティア活動の推進）
------	---	--------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校	教育活動の公開と情報発信	各種「たより」の家庭への持ち帰らせや掲示板への貼り出し、ホームページの内容を充実させることにより、教育活動の情報を発信する。	B	地域住民の方々からの評価はかなりよくなっている。毎月の「たより」も定着して保護者に渡っているようではあるが、「配布物が家庭に届いていない」との話もある。	保護者に確実に渡すよう生徒に対して指導するとともに、保護者に対しても学校からの配布物がないか確認していただくようお願いしていきたい。
学校	保護者の意見反映	PTA総会や理事会、保護者懇談会への参加率向上を図り、保護者の意見・要望を把握して、学校改善に生かす。	C	PTA総会への出席率は24%で昨年度よりは向上したが、目標達成はできていない。保護者懇談会への出席率は97%と、昨年度同様高い数値となっている。	PTA総会への出席を、各地区ごとにPTA役員の方々から促していただく。総会前の授業自主参観や、進路ガイダンスの機会を今後も設けたい。
経営	図書館環境の整備と充実	読書啓発活動を推進し、生徒希望図書の購入等により、図書館環境の整備に努め、年間一人当たりの図書貸出し冊数3冊を目指す。「図書館通信」を年10回発行する。	B	年間一人当たりの図書貸出し冊数、一日当たりの図書館利用者数は、共に目標値に達している。	図書館から発信する情報について、生徒と教職員の評価に差があった。生徒が図書館に来る機会が増えるように、今後も情報内容、発信の方法等を検討し、継続的に読書啓発活動を行ってきたい。
学習	教科指導の充実	生徒による授業評価をもとに教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。相互授業研修期間中、一人年間5回以上の授業を参観し、授業力向上に努める。	C	授業評価をもとにした授業改善については、教職員の達成率は78%で、評価の4と3で94%と評価できる。生徒の達成率は75%で評価の2と1の者が21%と振るわない。相互授業研修は意欲的に取り組んでいる。	教職員については、授業評価による授業改善と、学習評価による授業改善に取り組みたい。そのためにも、観点別学習評価の実施に向けた研究を進めたい。相互授業研修の効果的な活用についても研究したい。
指導	基礎学力の向上	定期的に家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。	C	家庭学習時間は昨年並みである。学力の向上に関しては、生徒、保護者ともに昨年並みであるが、教職員の評価が下がっている。	小テストや資格取得等に向けた取り組みにより家庭学習時間確保に貢献しているものの、基礎学力の向上に向けた対策に取り組むたい。

工業	実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数（3年間）6個以上を目指す。ジュニアマイスターの認定（ゴールド・シルバー15人以上）を目指す。	A	本年度の取得数は昨年度よりも0.4個増え、6.6個と目標を達成することができた。また、ジュニアマイスター顕彰についても、ゴールド9人、シルバー21人と、目標を達成できた。	保護者や地域住民の方々に対して、工業教育に関する社会人の講演や講義の実施について、あまり知られていないようであるので、ホームページや八工だより等を活用して周知していきたい。
	ものづくりの推進	ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。 地域と連携しながら、校内外の「ものづくり」にかかわる行事に参加する。 活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。	A	ものづくりコンテストは入賞することはできなかったが、WROの全国大会で4位入賞し、国際大会に出場した。また、ロボットアメリカンフットボール大会愛媛県大会で準優勝し、全国大会に出場することができた。出前授業、マウンテンバイクフェスタ、夏休み親子でロボット工作教室、ものづくり教室等も実施した。	生徒はものづくりに対して積極的に取り組んでおり、満足できる結果も収めることができた。今後更により結果が得られるように、継続して指導していきたい。
特別	ボランティア活動の推進	各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えるとともに意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。	C	今年度も夏休みまでのボランティア参加人数は低調であったが、家庭クラブを中心に行っている独居老人へのバラブレゼントや年賀状、保育園との交流などの活動が地域に根付いており、地域からの評価は高い。	地域を担う高校生育成事業における経験後の感想をみると、ボランティアに対する意欲や意識の高いことがうかがえる。しかし、学校で把握できる実人数の増加にはつながっていない。生徒の意識が活動につながっていくよう、情報の提供や啓発を活発に行っていきたい。
	学校行事の充実	充実した生徒会の委員会を10回以上開催し、積極的に参加したくなるような学校行事にする。	B	委員会は1学期に4回、2学期に6回実施し、3学期に2回予定している。生徒会主催行事はバラ展から始まり体育祭、工業祭、各学期のクラスマッチ等で充実した行事を実施することができた。他の学校行事においても熱心に取り組むことができた。	生徒一人一人が主体的に活動できる行事を目指して、生徒会執行部を中心に企画運営していきたい。行事等がマンネリ化しないよう、生徒の意見や反省点を次に生かしていけるような委員会活動を目指していきたい。
	活動	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。	B	今年度の部登録時での部活動加入率は100%であり、2学期末時点においても100%の加入率（転部者8名、兼部者19名）である。体育部・文化部ともに、予選を勝ち抜いての上位大会への出場も増加しており、意欲的な取組が成果として現れてきている。
生徒	基本的な生活習慣の確立	保護者との連携を密にし、欠席・遅刻・早退ゼロを目指す。 頭服指導を徹底し、高校生らしい身だしなみを心がけさせる。	C	遅刻数は、1年17人・24回（前年比+5人・8回）、2年11人・15回（同+7人・10回）、3年9人・11回（同-2人・5回）で、昨年度比増加した。頭髪服装については、違反率の増加が見られたが、校内での大きな乱れはなく一定の成果は見られる。	今後、ホームルーム担任を中心とした個別指導と入室届けの徹底及び5分前登校の奨励を通して、生徒に自覚を促していきたい。また、家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣が身に付くよう保護者に協力をお願いしていきたい。
	指導	規範意識と社会性の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通して生徒の規範意識を育成する。 校門指導、教科指導、部活動指導を通して挨拶を励行させる。	C	挨拶について、一部気になる生徒はいるが、教職員・生徒の評価は高く、校内では良好である。校門指導、教科・部活動での指導の成果が現れていると考える。校外での挨拶や交通ルール・マナーについては、地域住民の評価が依然として低く、一部の生徒について十分な成果が現れていない。

人 権	人権啓発の推進	「人権だより」やその他の啓発資料を通して、人権尊重の意識を高める。 「人権だより」を年10回発行する。	C	生徒の人権意識に関する項目が、昨年度よりも5%増の80%になったことは良い結果が出ている。先生方の生徒に対する指導のおかげだと感じる。また、熱心に人権・同和教育のホームルーム活動をしていただいている結果だと思われる。	保護者に対する啓発が必要のように感じる。人権について家庭で話し合っている数値は72%と高い数値を示しているが、昨年と同じである。今年度、人権委員を中心に生徒の活動を広げたが、更に生徒発信の保護者啓発を意識した取組を考えていきたいと思う。
	教育	いじめをなくする取組	いじめる生徒、いじめられる生徒ゼロを目指す。 いじめに関するアンケートを年2回実施する。	C	年に2回のいじめに関するアンケートを実施した。ひやかしやからかいなど、ふざけ半分の件数が何件もあり、これらをいじめの定義に当てはめると目標のゼロ件には届いてないといえる。悩み事を相談しやすいかどうかでは、生徒の評価が教職員よりも低いのが課題である。
進 路	就職指導の充実	望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。	B	職場見学や応募前職場見学、職業ガイダンス等の行事によって生徒の職業観や勤労観の育成は図る事ができた。一方で筆記試験や面接において低い評価やきわどい評価を得る者が目立ってきたことから、確かな学力を持たせることは100%達成とは言えない。しかし年内には就職を希望する者全員が内定を得ることができた。	職場見学、インターンシップ、体験発表等を通して職業観、勤労観を育む。さらに日々の学習活動の中で働くことの意義や目標が育成できるよう生徒個々に働きかけていく。基礎学力の不足が危惧されるので、模擬試験や補習等の充実を図り、行きたい企業へ1回の受験で合格できるよう学力の向上を目指す。
	指導	進学指導の充実	大学・専門学校などへの第1希望合格率90%以上を目指す。	A	各種模擬試験や補習等で、進学に対する意識付けと学力の向上を図ることができた。 年内に進学を希望する生徒全員が決定し、合格率100%を達成できた。
学 校 保 健	健康管理と保健指導の充実	健康診断結果の的確な把握と適切な指導を行うとともに、具体的な指導を計画し基本的生活習慣の確立を図る。 「保健だより」を毎月1回発行する。	B	健康観察を継続し、欠席理由の把握、感染症予防の徹底を図るとともに、基本的生活習慣の確立を目指した。健康管理や衛生管理について情報発信を行い、家庭との連携も深めることができ、出席停止者は減少した。	課題は冬の感染症予防である。引き続き基本的生活習慣の確立を目指し、生徒自らが考えて行動できるように、保健だよりや掲示物の内容を工夫し、生徒保健委員会活動を通じた啓発活動について検討し、実践していきたい。
学 校 安 全	安全意識の向上	様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。	B	12月には、消防署員の勧めでスモークを炊き、防火扉を作動させての避難訓練を実施した。煙で前が見えにくい状況の中での避難のため、避難所要時間は4分となったが、より実践的な訓練ができた。	達成率100%を目指して、今後も生徒・教職員の意識向上に向けて努力を持續させる。
学 校 行 政	校舎・校庭・教室の環境	校舎や校庭・教室の美化・整理整頓に努める。	B	校舎内の美化・整備に努めることができた。	校内美化・整頓の意識を持ちより良い環境になるよう目指していきたい。
	丁寧な接遇の励行	丁寧な来客対応・電話対応に努める。	B	窓口で来校者への対応や電話対応等も徐々にではあるが達成率が上昇している。	校内で接遇研修等を行い、窓口・電話対応をより丁寧に行えるよう努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。